

指定管理者が行う業務及び管理の実施基準

相模原麻溝公園動物広場

資料6

1 相模原麻溝公園動物広場管理に関する仕様書「3(2)・(3)・(4)・(5)・(6)供用時間・運営業務・提案」関連

本表に掲げる頻度については、最低限とする。

業 務 の 内 容				頻度等				
大分類				小分類		数量・範囲	頻度	備考
動物広場の供用時間	ア	管理事務所	8時30分～17時15分					
	イ	ポニー乗馬場	10時～16時30分(4月～9月) 10時～15時30分(10月～3月)					休所日について ・年末年始 (12/29～1/3) ・月曜日(休日に当たる日を除く)及び休日の翌日(休日、土曜日又は日曜日に当たる日を除く)は、休場日とする。
	ウ	動物広場(ポニー乗馬場以外)	9時30分～17時(4月～9月) 9時30分～16時(10月～3月)					
動物広場全般の運営	ア	平等利用の確保	利用者の平等・公平を図る。					
	イ	職員体制の確立	相模原麻溝公園動物広場を統括する責任者を配置する。また、事務所には業務に支障のないよう、原則常時1名以上の施設全般を把握している職員(施設長又は事務員)を配置し、運営にあたる。ただし、日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律に定める祝日は原則2名以上配置する。					専門的な技術、経験を有する者(動物を管理、飼育し展示する施設(動物園等)の管理運営経験を1年以上有する者など)を複数配置すること。
	ウ	利用者等のニーズの把握	施設管理や事業等、質の高いサービスを提供出来るように利用者等のニーズを的確に把握する。	利用者満足度調査			2回/年	
				利用者ニーズの把握			随時	
	エ	要望・苦情対応	迅速な対応を取り適正に処理を行う。					苦情等への対応マニュアルを作成するなど適切な対応ができる体制を整えること 利用者からの要望を管理運営に反映しやすい体制を整えること
	オ	飼育動物の適正管理	飼育動物の適正管理に努め、疾病及び傷害等が生じた時には適切な処置を行う。					疫病等への対策も講じること

カ	教室やフェスティバルの開催	動物とのふれあい体験教室やフェスティバルを開催する。	ボニー教室	20名/1回	6回/年	1回（5日間コース）
			障害のある児童生徒のためのボニー乗馬教室	6名/1枠	70日/年	原則土曜日/午前・午後2回実施
			動物クラブ	30名/1回	通年	休場日以外毎日
			動物フェスティバル		2回/年	春季・秋季
キ	子育て支援施策の取組みについて	平日の日中(来園者の少ない時間)を活用し、「登校をためらいがちな児童・生徒」に対する事業の実施する。 公園の子育て支援施策とし、「市の指定事業」とする。	「登校をためらいがちな児童・生徒」のための事業	20名/1回 団体枠	10日/年 2回/年	青少年相談センター（相談指導教室）やフリースクールなどに通所する児童生徒などを団体で受け入れる「団体利用の枠」と、自ら参加を望む子どもを対象とした「個人利用の枠」の2つを設ける方向とする。
ク	情報提供・広報	窓口に施設のパンフレットなどを配架し、施設情報の発信を図る。また、施設の記録用として、イベント時の様子や風景等を撮影し、保持すること。 イベント告知や施設のPRをSNS等様々な媒体を使い、広く発信し、来園者の増加をはかること。				施設案内用パンフレットを作成すること。
						季節ごとの風景（様子）やイベント時の様子を撮影し、施設記録用や広報等提供用に残しておくこと。依頼があった際には提供できるようにすること。
ケ	研修の実施	職員の育成及び運営に必要な研修を実施し、常にスキルアップを図る。				
コ	動物広場内の巡回	随時園内を巡回し、施設の異常箇所の発見や、不適切な利用を行っている者への指導を行う。 なお、夜間における巡回・警備については、「相模原麻溝公園」の指定管理者において警備員を配置し行うため、連絡調整を随時適正に図ること。			毎日	不適切利用者等への指導（対応）記録を作成すること、 警備員詰所については「動物広場」管理棟内とする。
サ	行為の制限・禁止及び制限の解除に係る連絡調整	相模原市都市公園条例第3条及び第5条を良く理解し、禁止行為を見つけた際には注意を行うとともに、行為の制限については、必要に応じて手続き等の説明を行うとともに、行為の制限の解除に関する受付及び市との連絡調整を行う。				相模原市都市公園条例第3条に基づく行為の制限の解除に関する受付及び市との連絡調整を行うこと。
シ	利用の禁止・制限	相模原市都市公園第6条により、やむを得ないと認められる場合には、区域を定め、利用の禁止又は制限を行う。				

動物 広場 全般の 運営	ス	業務報告・連絡調整	日々の管理日誌の作成及び利用状況等の報告資料の作成。 業務処理状況の記録及び毎月の報告書の提出。 事故・災害等緊急事態が発生した場合における迅速、適正な対応・処理及び報告を行う。 警報発令時における警戒配備態勢の設置。	管理日誌の作成 苦情対応や要望処理状況の記録と報告 事故・災害時の対応 急病・犯罪等の事故報告 自然災害時の警戒配備態勢等		毎日 随時 随時 随時 随時	提出は月毎。不適切利用者への指導（対応）記録を添付すること。
	セ	夜間警備の実施	公園施設の各種財物類の火災、盗難、破壊の予防、拡大防止を図るとともに、不法行為者の発見、排除並びに保安警備の遂行にあたり、警備員を配置し夜間警備を実施すること。 なお、実施にあたり、公園内に設置する「ふれあい動物広場」の指定管理者と連絡調整を行い、公園全体の安全保持を図ること。	報告書の提出		毎日	
	ソ	利用者のサービスの増進	公園利用者の利便性の向上のための便益施設を設置すること。 ただし、別途、指定管理者には、設置に係る市への許可申請及び許可に伴う使用料の負担が必要。				売店や自動販売機、キッチンカー等
ポニー 乗馬場の 運営	ア	利用の受付・承認管理	利用承認申請の受付及び動物広場ポニー乗馬券の交付	利用承認申請受付		随時	
				利用承認・乗馬券の発行		随時	
	イ	利用料金の受理等	利用料金については、相模原市都市公園条例で定める額の範囲内において、市の承認を得て設定し、利用者から徴収する。また、相模原市都市公園条例及び施行規則に基づき、利用料金の減額又は免除を行う。 徴収した現金は、市の公金管理基準に準じて適切に管理を行う。	利用料金の徴収		随時	
	ウ	利用者への安全対策	乗馬前には、馬具・馬装の点検を必ず行うこと。 利用者に対して、利用上の注意事項を説明し、利用者がポニー乗降時及び引き馬中には必ず職員による介添えを行い、コース場内外に注意を払い事故等のないよう安全対策を講じる。			毎日	
	エ	ポニーとの接し方の指導・実践	利用者に対して、事前にポニー乗馬に関する基礎的知識等適切なアドバイスを行う。			毎日	
	オ	入場制限等	利用対象者は、小学生以下の児童及び保護者の付添いのある幼児とする。安全に利用ができるように、混雑時等には利用人数を調整する。			随時	

	カ	利用者の区分別対応	利用者の区分は、個人利用と団体利用とし、個人利用者は、自動券売機により「ポニー乗馬券」を購入した者とする。				
ふれあいコーナーの運営	ア	利用者への安全対策	利用者に対して、利用上の注意事項を説明する。また、動物が利用者に危害を与えないよう十分注意を払い、爪切り・除角等の安全対策を講じ、事故等のないよう運営する。			毎日	ヤギ・ヒツジ・ウサギ・モルモット等
	イ	動物との接し方の指導・実践	利用者に対して、利用時間内に動物との基本的な接し方の指導及び実践を行う。 餌の与え方、抱き方及び手入等世話の仕方並びに広く小動物全般にわたる情操教育的な効果を高めるような指導を行う。			毎日	
	ウ	入場制限等	利用対象者は、原則として小学生以下の児童及び幼児を優先し、適正な利用ができるように、混雑時等における利用人数を調整する。（未就学児については、保護者が付添う）			随時	
提案	ア	自然環境や緑化意識の啓発方策	施設や地域の活性化を図るため、指定管理者の独自性のある創意工夫を凝らした事業を提案することができる。なお、事業の実施に関する提案については、実施回数及び規模についても提案すること。 施設の運営の中で生じた提案については、市に対して提案することができる。 ボランティアの拡充のため、連携や協力した事業を行うことができる。 指定管理者の判断により、公園の設置目的にのっとった事業（教室）を行うことができる。 予算を伴う提案については、市の予算編成スケジュールにのっとり行うこと。				
	イ	ボランティアや地域団体等との連携・協働					
	ウ	事業の実施・利用促進方策					施設や地域の活性化に資する事業の実施については積極的に提案すること。
	エ	施設の供用時間の変更					上記の供用時間を基本とするが、変更等の際は市と協議のうえ、決定すること。
	オ	その他動物広場の運営に関する事項					

2 相模原麻溝公園管理に関する仕様書「3(7)・(8)維持管理業務」関連

業務の内容				頻度等			
大分類		概要		小分類	数量・範囲	頻度	備考
清掃・点検等施設の維持管理	ア	動物の飼育及び動物舎の管理	全ての飼育動物が心身ともに健康な状態を保つように給餌、手入及び衛生等の飼育管理を十分行い、動物が、利用者等に危害を加えないよう訓練を行う。病気予防のため、注射・投薬等を獣医師の指示により行う。動物舎内の清掃は毎日行い、必要に応じ殺菌・消毒をする。特に、臭気には十分配慮し、通路・放養場の清掃は必要に応じて随時行い、利用者に不快感を与えないよう努めること。	日常管理		随時	詳細は、【資料3 - 1】「動物舎及び動物の管理に関する作業について」参照。 展示コーナー・ふれあい動物広場コーナー・ポニー乗馬場
				給餌		毎日	
				清掃		毎日	
	イ	管理事務所の管理	施設や設備を常に正常に保持し、適正な利用に供するように随時点検を行い、必要に応じて補修や修繕を行うこと。点検や修繕の際には、利用者の安全確保を行うこと。電気掃除機等を使用し、利用者が訪れる場所は電気掃除機を毎日かけ、埃などが溜まらないようにすること。定期清掃では、窓ガラスの清掃、床のワックスがけ、照明、ブラインドの清掃も行うこと。自動体外式除細動器（AED）を配備すること。	点検	1箇所	随時	2階建：1棟 （事務所：1階 会議室・倉庫：2階）
				鍵施錠・開錠		毎日	
				日常清掃		毎日	
				定期清掃		年4回	
				特別清掃		年2回	
	ウ	トイレの管理	便器、床、洗面台に汚れや垢等が残らないようにすること。また、臭気も残らないようにすること。トイレットペーパー、防臭剤、水石鹸等の衛生材料は欠かすことがないように補充を行うこと。	点検	3箇所	1回/日	屋内：1箇所 （管理事務所1F・2F） 屋外：2箇所 （動物広場：1 救護舎：1）
				鍵施錠・開錠		毎日	
				清掃		毎日	
				ペーパー交換		随時	
	エ	水飲み場の管理	常に衛生的に保たれるようする。	清掃・点検	2基	毎日	
		手洗場の管理			1基		
	オ	園路・広場等園内の管理	施設や設備を常に正常に保持し、適正な利用に供するように随時点検を行い、必要に応じて補修や修繕を行うこと。点検や修繕の際には、利用者の安全確保を行うこと。園内のゴミ拾いを行うこと。その際に落葉等も清掃すること。落葉等については、随時掃き集める（清掃を行う）こと。	点検	約12,500m ²	毎日	
				園内清掃	約12,500m ²	毎日	
				抜根除草		3回/年	

清掃・点検等施設の維持管理	カ	ベンチ・野外卓の管理	施設及び設備は正常に保持し、適正な利用に供するよう日常的な点検を行い、必要に応じた部品交換や施設の補修・修繕を行うこと。	点検・修繕	26基	随時	ベンチ：11基・サークルベンチ3基 野外卓：12基
	キ	遊戯施設の管理	遊具については、「都市公園における遊具の安全確保に関する指針（改定第2版）」（平成26年6月国土交通省）及び「遊具の安全に関する基準」（2014年6月 一般社団法人日本公園施設業協会）に基づき点検を行い、必要に応じて修繕を行うこと。	点検・修繕	2基	随時	木製独立遊具
	ク	樹・排水溝の管理	側溝・集水樹・浸透樹等の性能を回復するため、溜まったゴミや土砂等は取除く。落葉期間に外周道路の落ち葉を清掃する。 なお、集水枡等の浚渫を行う際には、土砂等の空間放射線量の測定を行い、市の基準に応じた処理を行うこと。	点検	52箇所	4回/年	
				清掃		随時	
	ケ	保守点検	関係法令の基準に基づき法定・定期・日常点検等常に状況を把握し作業にあたること。 時計については、毎日時報等で確認し、正確性を保つこと。	放送設備の保守点検	1式	2回/年	6ヵ月ごと。
				園内灯保守点検	19基	随時	
				時計台	1基	随時	定期1回/年
				消防設備		2回/年	法定点検・火災報知機・消火器
				特定建築物点検 特定建築設備点検		1回/3年 1回/年	法定点検
				空調設備保守点検	1基	2回/年	
				自動扉保守点検	1台	2回/年	管理事務所玄関
				自動券売機保守点検	1基	1回/年	
				浄化槽保守点検	1基	2回/年	スクリーン制御用分電盤等を含む
	コ	作業用具等の管理	用具入れや倉庫等は常に必要な手入れを施し、整理整頓をする。			随時	
	サ	自動販売機の管理	園内に設置された自動販売機等の管理等。緊急時は連絡調整等の対応をすること。			随時	

樹木等の育成管理	ア	樹木の管理	<p>倒木等で公園利用者の安全が脅かされないようにするため、高木・中木の剪定、伐採や頭詰めについては、「公園樹木等維持管理計画」に基づき、年度ごとの計画を策定し、それに基づき計画的に実行していくこと。</p> <p>剪定等については、針葉樹の場合は萌芽力を損なわないように芽摘みを行い、花木類の場合は、花芽分化の時期に注意すること。</p> <p>枯枝、折枝、建築限界を侵して人や車に接触するおそれのある低い枝（危険枝）、公園利用者等の視界を妨げる枝（支障枝）、病害虫に侵され、治療や駆除ができない枝（病虫害枝）等については、年度計画問わず、その危険度合いにより、出来るだけ速やかに対応をすること。</p> <p>植栽については、定期的に刈り込みを行うこと。</p> <p>害虫等が発生した際に散布する薬剤は、農薬取締法上で人畜無害及び魚毒性の低いもので、腐食性・引火爆発性のない安全性が高いものを使用し、関係法令に従って実施すること。</p>	剪定（高木）	約230本	随時	管理上の支障枝について適宜実施
				剪定（中木）	約70本	随時	刈込を含めて、適宜実施
				剪定（藤棚）	約1,400㎡	1回/年	人力により行う
				刈込（低木・たま物・生垣）		随時	
				枯損木の撤去		随時	
				病虫害防除		随時	
	イ	花壇の管理	<p>耕耘、整地し枯損花及び雑草等は根より掘り起こし取り除くこと。除草剤は使用しない。</p> <p>施肥については、肥料法に基づく登録証明書、成分表の写しを添付する。</p> <p>花壇面に所定の花弁数を密に斑のないように植付け、植付け後は巡回管理を行う。</p>	植栽		随時	
				施肥		随時	
				抜根		3回/年	人力により行う。
	ウ	その他園内の管理	<p>フォーク等を用い人力で根ごと除去。機械を使用する場合は肩掛式とする。</p> <p>樹木や施設の損傷に注意しつつ、刈り残しやムラのないよう均一に刈り込み、つる性雑草も除去する。</p> <p>発生材は園内処理の場合、毎日所定の箇所集積し、刈り後は園路等に散乱した草の清掃等を行う。</p>	機械除草		3回/年	機械により行う際は複数人で作業をし、1人は必ずシートや板等で養生し、小石の跳ね飛ばし等による被害がないようにすること。
				人力除草		3回/年	